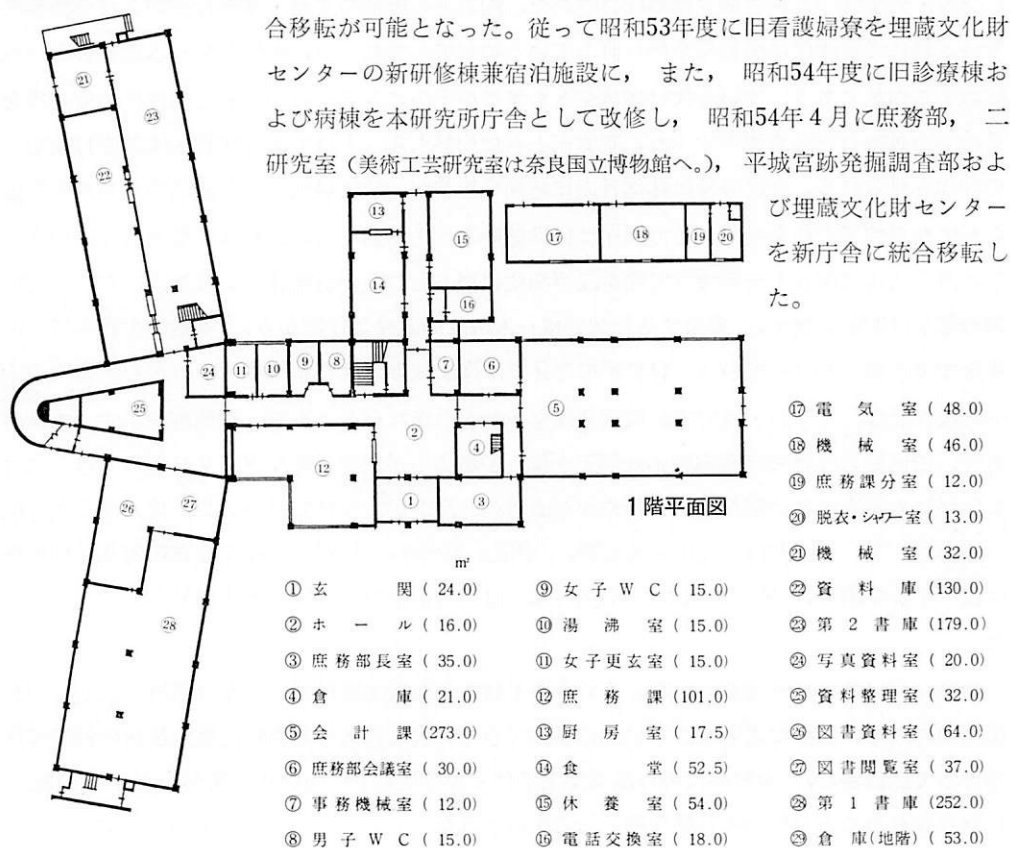


奈良国立文化財研究所庁舎

本研究所は奈良市春日野町に庶務部，三研究室，佐紀町に平城宮跡発掘調査部および埋蔵文化財センター，橿原市に飛鳥藤原宮跡発掘調査部，高市郡明日香村に飛鳥資料館と施設が点在していた。春日野町の庁舎は明治35年の建造物で，奈良公園内の特別風致地区にあり，現状変更は極めて困難な状態であった。さらに，平城宮跡発掘調査部，埋蔵文化財センターは，特別史跡平城宮跡内にある資料館，および収蔵庫を用いて活動を続けてきたが，これらの建物は資料館，収蔵庫としてのみ，仮設的に認められたものであり，平城宮跡発掘調査部と，埋蔵文化財センターは本来的には平城宮跡内に位置すべきものでないことは，すでに昭和44年当時に文化庁の「平城宮跡保存整備委員会」の中で指摘されていたことである。またその後，平城宮跡全域を遺跡博物館として整備しようとする平城宮跡遺跡博物館基本構想もあり，宮跡内には展示資料館，便益施設等を残し，調査研究部や事務室等は，宮跡の外に置くことが望まれていた。また，埋蔵文化財センターの研修生宿泊所は借地内のしかも仮設建築（プレハブ）という状態であった。このような状況の中で施設計画を進めていったところ，幸い平城宮跡西側に隣接する奈良県立病院奈良分院の跡地および建物を譲り受けることができ，本研究所の統合移転が可能となった。従って昭和53年度に旧看護婦寮を埋蔵文化財センターの新研修棟兼宿泊施設に，また，昭和54年度に旧診療棟および病棟を本研究所庁舎として改修し，昭和54年4月に庶務部，二研究室（美術工芸研究室は奈良国立博物館へ），平城宮跡発掘調査部および埋蔵文化財センターを新庁舎に統合移転した。



施設の概要

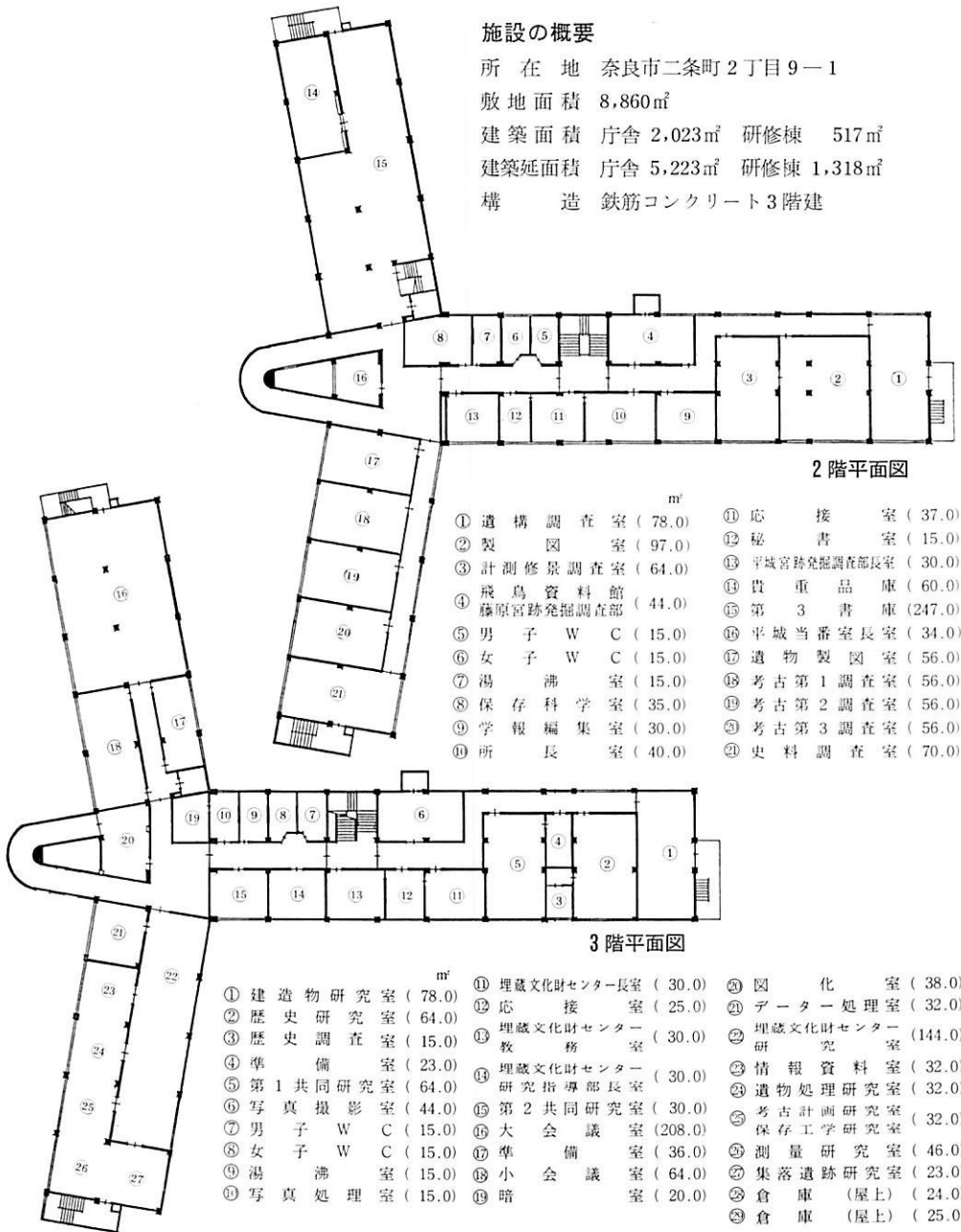
所在地 奈良市二条町2丁目9-1

敷地面積 8,860㎡

建築面積 庁舎 2,023㎡ 研修棟 517㎡

建築延面積 庁舎 5,223㎡ 研修棟 1,318㎡

構造 鉄筋コンクリート3階建



東立面図

